

30,000台

液化水素の長期・大量貯蔵を実現する、川崎重工のテクノロジー。

水素社会の実現には、水素を長期かつ大量に安定供給できる貯蔵タンクが必要です。

大量貯蔵の課題は、 -253°C の極低温で液化した水素の蒸発を抑えた長期保存でしたが、

川崎重工は高度な断熱技術によって克服しました。液化水素は、ロケット燃料に使用されています。

この液化水素を貯蔵する国内最大の球形タンク(540 m^3 /基)は、1994年からJAXA種子島宇宙センターで活躍し、その技術は今、燃料電池自動車30,000台分の燃料に相当する2,500 m^3 の大型貯蔵タンクの開発につながっています。

川崎重工は、「つくる」「はこぶ」「ためる」「つかう」といった“水素エネルギーサプライチェーン”に必要な、

インフラ技術の開発・製品化に取り組んでいます。水素を安全に、安価に、安定的に取り扱い、

私たちの豊かな暮らしを実現していく道。それが“Kawasaki Hydrogen Road”です。

※燃料電池自動車1台あたり水素の満充填量を5kg(0.07 m^3)とした場合

つくる



未利用資源の活用

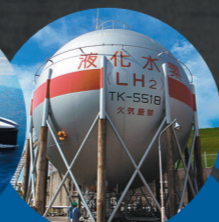


液化水素の製造

はこぶ・ためる

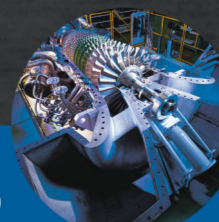


液化水素の大量輸送



液化水素の長期貯蔵

つかう



水素ガスタービン発電



燃料電池車の燃料

Kawasaki Hydrogen Road